

授業展開案 高等学校国語「国語総合」

1 テーマ

「ミロのヴィーナス」

2 I C T 利活用のねらい


単元のまとめにおいて、ミロのヴィーナスの様々な画像や、文章の抽象的な部分を分かりやすくまとめたスライドを提示することにより、「なぜ、失われたものが両腕でなければならないのか？」という問いに対する筆者の考えを捉えさせる。

3 利活用する I C T 機器及びソフトウェア

①機器：電子黒板

②教材：「ミロのヴィーナス」(Microsoft PowerPoint)

4 I C T 利活用の場面

| 学習内容 | I C T 利活用の場面 |
|---|--|
| <p>ミロのヴィーナスについて復習する。</p> <p>ミロのヴィーナスの画像を見て、「無」の美しさについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身像 ・上半身 ・大きさ(黄金比が用いられていることも確認) <p>ミロのヴィーナスの復元案について知り、現在の姿と復元案とを比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミロのヴィーナスの復元案 ・ミロのヴィーナスの現在の姿(両腕がない姿)とミロのヴィーナスの復元案(両腕がある姿)との比較 <p>筆者の考える「失われたものが両腕でなければならなかった理由」を捉える。</p> | <p>①動機付け：スライドを表示して、本時に学習することを意識させる。</p> <p>②説明の補助：ミロのヴィーナスの画像(3枚)を表示する。</p> <div data-bbox="874 1167 1121 1487" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ミロのヴィーナス① 全身像</p>  </div> <p>③説明の補助：ミロのヴィーナスの復元案(1枚)と、現在の姿と復元案の比較(1枚)とを表示する。</p> <p>④説明の補助：本文の流れをたどったスライドと、そこから導き出される筆者の芸術観を表示する。</p> |

5 I C T 利活用のポイント

①動機付け

本日のテーマを確認する。スライド 2 枚目のルーヴル美術館の写真をクリックすると、ミロのヴィーナスの画像が表示される。



この写真をクリック。

②説明の補助

ミロのヴィーナスの全身像，上半身のアップを表示し，筆者が感じている「無」の美しさについて考えさせる。また，ミロのヴィーナスの美しさの秘密の一つに黄金比が関係していることを確認し，その際に像の実際の高さが 203 センチメートルであることも伝える。

③説明の補助

ミロのヴィーナスの復元案(リンゴを手にしている像)と，両腕のない現在の姿とを表示し，両者を比較する。

「では日本へ帰りましょう」の部分をクリックすると，まとめのスライドが表示される。



この部分をクリック。

④説明の補助

まず本文を表示し，指示語が指しているものを押さえさせ，「手」が実体でありながら象徴的意味を持つことを理解させる。

次に，「手の『象徴的意味』」を本文に沿ってたどり，手の暗示するものとは，人間が人間らしく生きるに当たって，非常に重要な粹割を果たすものであることを確認させる。

最後に，両腕のないミロのヴィーナスの姿を再度映し出す。そして，筆者の考えるところの，人間の姿をした美術品という運命を担ったミロのヴィーナスの「失われたものが両腕でなければならなかった理由」を捉えさせる。

どの段階においても，電子黒板を活用することによって，生徒が文章の流れを押さえつつ，筆者の意図をつかめるようにする。